

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、第2 版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%		90%		
平常点		算出方法		算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他	10%	算出方法	小テスト	10%	算出方法 小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	往診、訪問マッサージ		
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		1 1 章の「A 脳血管疾患（a）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
2		1 1 章の「A 脳血管疾患（a～d）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
3		1 1 章の「B 感染性疾患（a～c）、C 脳・脊髄腫瘍（a）」について	
4		1 1 章の「C 脳・脊髄腫瘍（a～d）、D 基底核変性疾患（a～d）」について	
5		1 1 章の「D 基底核変性疾患（a～d）」について	
6		1 1 章の「E その他の変性疾患（a～c）」について	
7		1 1 章の「F 痙攣性疾患（a）、G 筋疾患（a～b）」について	
8		1 1 章の「H 運動ニューロン疾患（a～b）、I 末梢神経性疾患（a～d）」について	
9		1 1 章の「J 神経痛（a～d）、K 機能性疾患（a～d）」について	

10	11 章補足資料①
11	11 章補足資料②
12	11 章 問題演習
13	10 章の「A. 赤血球疾患(a. b. c)」について
14	10 章の「A. 赤血球疾患(d)、B. 白血球疾患(a)、C. リンパ網内系疾患(a)」
15	10 章の「D. 出血性素因(a. b)」について
16	10 章補足資料①
17	10 章補足資料解説②
18	10 章 問題演習
19	試験前復習 演習問題
20	試験解説
21	9 章の「C. 動脈疾患(a. b. c)」について
22	9 章の「A. 心臓疾患(a. b)」について
23	9 章の「A. 心臓疾患(b)」について
24	9 章の「A. 心臓疾患(b)」について
25	9 章の「A. 心臓疾患(b. c. d)」について
26	9 章の「B. 冠動脈疾患(a. b)、D. 血圧異常(a. b)」について
27	9 章補足資料①
28	9 章補足資料②
29	12 章の「A. リウマチ性疾患(a)、B. 膠原病(a)」について
30	12 章の「B. 膠原病(b. c. d. e. f. g)」について
31	13 章の「A. 小児科疾患(a. b) B一般外科」について
32	13 章の「C麻酔科 D. 婦人科疾患(a. b. c. d. e)」について
33	13 章の「E皮膚科疾患(a～d) F眼科疾患(a～f) G耳鼻咽喉科疾患(a～e)」について
34	第13章の「H精神科疾患(a～d)、I心療内科」について
35	第13章の「H精神科疾患(a～d)、I心療内科」について
36	試験前解説 演習問題
37	試験解説
38	13 章補足資料①
39	13 章補足資料②
40	13 章補足資料③ 問題演習

その他の事項

授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。
資料は自己管理をお願いします。紛失時は各自コピー等に対応して下さい。

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂				

具体的な到達目標	
目標 1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。 生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標 2	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標 3	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標 4	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標 5	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 6	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 7	内部障害のリハビリテーションについて説明できる。
目標 8	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標 9	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 10	がんのリハビリテーションについて説明できる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験		
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書 2-7 頁
2		リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書 7-12 頁
3		リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書 12-13 頁
4		リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書 13-16 頁
5		リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書 16-24
6		診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書 81-92
7		診断・評価学②検査・測定（総論、形態計測、関節可動域テスト）	教科書 92-105
8		診断・評価学③検査・測定（筋力評価、整形外科的検査法）	教科書 105-122
9		診断・評価学④検査・測定（神経学的検査法、ADL の評価、高次脳機能検査）	教科書 122-131
10		診断・評価学⑤検査・測定（運動発達評価、心理評価、摂食嚥下機能の評価）	教科書 131-136
11		診断・評価学⑥検査・測定（筋緊張・片麻痺機能の評価）	教科書 136-139
12		治療学①運動療法	教科書 140-149
13		治療学②物理療法	教科書 149-151
14		治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書 151-160
15		治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書 160-180
16		整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書 182-216
17		整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書 216-231
18		整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書 231-241
19		整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書 241-249
20		神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書 250-259
21		神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書 260-272
22		神経疾患③パーキンソン病	教科書 272-278
23		神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書 278-291
24		内部障害①虚血性疾患	教科書 292-298
25		内部障害②呼吸器疾患	教科書 299-304
26		内部障害③糖尿病	教科書 304-317
27		高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書 336-347
28		高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書 347-352
29		小児疾患①脳性麻痺、②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書 353-361
30		がん	教科書 318-335
その他の事項			
教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	この授業ではあはき法及び他の医事・社会福祉・社会保険・衛生法規の基礎を学び、それらの関係性及び制定の主旨を理解するとともに、法に則り、安心・安全な医療を提供できるようになることを目的とします。				
教 科 書	関係法規 第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	あはき法制定の目的について説明することができる。
目標 2	あはき法における免許・名簿に関する事項について説明することができる。
目標 3	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の業務範囲について説明することができる。
目標 4	施術所の要件や広告の制限について説明することができる。
目標 5	あはき法に纏わる罰則について説明することができる。
目標 6	各種医事法規・薬事法規について、その概要を説明することができる。
目標 7	各種衛生関係法規・社会福祉関係法規・社会保険関係法規について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	開業等について、自身の経験も踏まえ、授業を展開する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明、序論、第1章あはき法①（1. 法制定の目的、2. 免許と試験）	
2		第1章あはき法②（3. 業務 1）～3））	
3		第1章あはき法③（3. 業務 4）～7））	
4		第1章あはき法④（4. 学校、養成施設～7. 罰則）	
5		第1章あはき法⑤（問題演習）	
6		第2章関係法規①（1. 医事法規と医療制度～3. 医師法）	
7		第2章関係法規②（4. その他医療従事者に関する法律）	
8		第2章関係法規③（5. 薬事法規、6. 衛生関係法規（6-1））	
9		第2章関係法規④（6. 衛生関係法規（6-2, 6-3））	
10		第2章関係法規⑤（問題演習①）	
11		第2章関係法規⑥（7. 社会福祉関係法規）	
12		第2章関係法規⑦（8. 社会保険関係法規（8-1））	
13		第2章関係法規⑧（8. 社会保険関係法規（8-2）、9. その他の関係法規）	
14		第2章関係法規⑨（問題演習②）	
15		テスト返却、まとめ	

その他の事項

特に前半部の「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の内容は、将来、開業をする際に、必要となる知識となります。国家試験のみならず、卒業後のことも見据え、学んでいただければと思います。

担当者メールアドレス usui@butsugen.or.jp

専 門 分 野 (東洋医学臨床論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教 科 書	新版 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉 南江堂、新版 東洋医学概論 医道の日本社 臨床医学各論 医歯薬出版社、臨床医学総論 医歯薬出版 等				

具体的な到達目標	
目標 1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標 2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標 3	疾患、症候に対する鍼灸施術を説明できる。
目標 4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標 5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標 6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標 7	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標 8	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 6 年間の実務経験あり。		

**実務経験
をいかした
教育内容**

臨床現場に必要な事項についても教授しながら、また国家試験における出題傾向も交えて授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2 心系統 I 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2 心系統 II 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2 心系統 III 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 I 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 II 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 III やせ(るい瘦)	
7		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 IV ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節 I 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節 II 発熱	
12		第2章各論 第3節 III 冷え IV のぼせ	
13		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
15		第2章各論 第3節 V 浮腫	
16		第2章各論 第3節 VI 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候 II 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候 III 口渇	
19		第2章各論 第4節 その他の症候 IV 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		各種の検査・指標など	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
29		東洋医学臨床論総合 総合問題演習	
30		東洋医学臨床論総合 総合問題演習	
その他の事項			

<授業の概要>

教科書および配布資料を用い、授業を行います。

<教員から>

東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨します。

<連絡先>

munesue@butsugen.or.jp

専 門 分 野 (東洋医学臨床論Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	4	必要時間数	4 8 ／ 8 0	実施時間数	4 8 ／ 8 0
担当教員	勢志 有次				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	平成 2 6 年 4 月開催の第 1 0 0 回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名前が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2 0 2 2 年				

具体的な到達目標	
目標 1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標 2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標 3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる
目標 4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標 5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標 6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標 7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標 8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べることができる
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	9 0 %		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	1 0 %	算出方法	欠席 1 回減点 2 点、遅刻 1 回減点 1 点
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、1 5 年以上の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
2		Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）、Ⅰ. 概説	
3		Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
5		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
6		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
7		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
8		Ⅵ. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9		Ⅶ. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10		Ⅷ. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
12		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
13		Ⅹ. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14		Ⅺ. 膝痛、Ⅳ関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
15		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ①	
16		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ②	
17		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ③	
18		2－3 脾系統 Ⅶ. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19		2－1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20		2－1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21		2－5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
22		2－5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
23		2－1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
24		総 復 習	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかに身についているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記４科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

専 門 分 野（ はりきゅう理論Ⅱ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	40	実施時間数	40
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業では人体に鍼灸施術をすると、どのような作用機序で効果を発揮するかを学ぶ。その作用機序を理解するためには生理学の知識が必要になってくる。従って、生理学の知識を再教授し、その知識が鍼灸施術に連結する事を目的とする。また、国家試験に出題される問題に対応できる力を育成する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、はりきゅう理論第 3 版 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	鍼灸治効に必要な生理学的知識を理解し説明することができる。
目標 2	鍼灸の治効機序を理解し説明することができる。
目標 3	関連学説について理解し説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%			
平常点	30%	算出方法	小テスト	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動系の調節（随意運動、反射運動）	
2		運動系の調節（ α — γ 連関と筋緊張）、自律神経による調節	
3		自律神経を介する反射、内分泌系による調節	
4		感覚（痛覚①）	
5		感覚（痛覚②）	
6		感覚（関連痛、痛みと鍼灸、温度覚）	
7		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚①）	
8		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚②）内臓感覚	
9		熱傷（炎症の徴候・出現細胞・制御因子・発痛物質）	
10		熱傷（分類、灸）	小テスト
11		体表の反応、トリガーポイント	
12		鍼鎮痛①下行性痛覚抑制、DNIC	
13		鍼鎮痛②内因性痛覚抑制系	
14		皮膚循環と鍼灸、運動系と鍼	
15		消化器系と鍼、泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸	
16		鍼灸治効機序と臨床の接点①	
17		鍼灸治効機序と臨床の接点②	
18		鍼灸治効機序と臨床の接点③	
19		関連学説、まとめ、問題演習	
20		まとめ、問題演習	
その他の事項			
状況により、セイリン工場見学・もぐさ工場見学が授業に落とし込まれる可能性があります。予めご了承ください。			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0	実施時間数	9 0
担当教員	岩本 奈己 / 井口 智弘 / 金井 優也 / 樋口 雅一				
授業形態	実 習	教 室	第1 実技室		
授業目的	前期では、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。				
	後期では運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できることを目標に、臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	鍼通電を安全に行える。
目標 2	間接灸（棒灸・箱灸・隔物灸）を安全に行える。
目標 3	複数の使用経穴に対して、安全かつすばやく刺鍼が行える。
目標 4	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標 5	目的とする場所に鍼尖を誘導できる。
目標 6	病態に応じた鍼灸を選択することが出来る。
目標 7	症状に対して特殊鍼灸術を含めた鍼灸施術を安全に行える。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	50%		50%	
平常点	50%	算出方法	50%	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。 鍼灸治療院にて 2 年間の勤務経験あり。本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 4 年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて 2 年間の実務経験あり。 大学院鍼灸センターにて 2 年間、往診専門で 5 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。 〔樋口〕鍼灸師・トレーナー。鍼灸治療院にて 20 年以上の臨床経験

実務経験 をいかした 教育内容	鍼灸を行う事によりどのような症状を改善できるのか、またどのような経過をたどり改善していくのかを伝える。
	鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。
	また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現し、使用頻度の高い特殊鍼灸 施術を紹介し授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		足部	樋口
2		鍼通電①	金井
3		中足骨疲労骨折	樋口
4		鍼通電②	金井
5		足関節捻挫	樋口
6		鍼通電③(神経パルス)	金井
7		足関節捻挫後遺症	樋口
8		顔面部刺鍼	井口
9		シンスプリント	樋口
10		棒灸・箱灸	井口
11		アキレス腱炎	樋口
12		隔物灸	井口
13		オスグッド。ジャンパー膝	樋口
14		奇経治療	井口
15		腸脛靭帯炎	樋口
16		経筋治療	井口
17		ランナーズジストニア（ぬけぬけ病）	樋口
18		接触鍼	井口
19		手部	樋口
20		灸頭鍼①	井口
21		月状骨軟化症	樋口
22		灸頭鍼②	井口
23		TFCC	樋口
24		灸頭鍼③	井口
25		野球肘	樋口
26		耳鍼、顔面部刺鍼、鍼通電のまとめ	金井
27		テニス肘	樋口
28		前期試験①	井口・金井
29		野球肩	樋口
30		前期試験②	井口・金井
31		腰痛に対する鍼灸治療①	金井

32		腰痛に対する鍼灸治療②	金井
33		頸部・肩背部の凝りに対する鍼灸治療①	金井
34		頸部・肩背部の凝りに対する鍼灸治療②	金井
35		股関節痛・殿部痛に対する鍼灸治療①	金井
36		股関節痛・殿部痛に対する鍼灸治療②	金井
37		顔面神経麻痺の鍼灸治療	金井
38		膝関節痛(膝蓋骨付近)に対する鍼灸治療	金井
39		まとめ	金井
40		後期試験①	金井、岩本
41		後期試験②、手部の触診・手部の特効穴、	岩本、金井
42		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	岩本
43		寝違い・後頸部の鍼灸治療	岩本
44		頭痛に対する鍼灸治療	岩本
45		風邪・胃腸症状に対する鍼灸治療	岩本

その他の事項

【授業に関して】

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

【平常点について】

① 紙上の施灸

毎月初めに、10枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末まで（4月除く）に各担任もしくは金井へ提出してください。

（4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月 に実施とする）

前期：施灸用紙50枚提出で平常点50点

後期：施灸用紙20枚提出で平常点50点

②その他

- ・実技道具や実習着忘れ 1回につき1点減点
- ・無断欠席・遅刻 1回につき1点減点
- ・授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき3点減点

【実技実習の到達目標】

鍼：目標課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

- ・深度： 3年生は±2mm以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。
- ・角度： （直刺）90° を目標として刺鍼する。3年生は誤差±10° 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。
（斜刺）30° から60° であるが、基本45° を目標として刺鍼する。3年生は指定された角度に対し±10° 以内
※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して3分間に12壮、半米粒大の透熱灸（緩和あり）ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3年生は3分間に米粒大10壮、半米粒大12壮

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	1 3 5	実施時間数	1 3 6
担当教員	臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。				
	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。				
	授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	41 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0 点	算出方法	
試験日					

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 9 年、本校附属治療所で 1 1 年間の実務経験あり。 〔下宮〕 はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔棟居〕 はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 6 年間の実務経験あり。 〔高橋〕 はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。

	本校附属治療所で7年間の実務経験あり。 〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で7年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で5年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で15年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	（鍼灸） 鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1～68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項
<出席点>59点 - 総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。 <平常点>41点 ※ポートフォリオを提出しなければ点数はありません。 【加点方式】 - ポートフォリオの提出（4月～12月 計8回） - 月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。 - 評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。 - 年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意 8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。 【減点方式】下限40点 - 日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など） 「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など） - 令和8年7月～9月の欠課、令和9年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

授業概要			
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	1	必要時間数	3 0
担当教員	前田 朱美		
授業形態	実 習	教 室	第 1 実技室
授業目的	2 年次に学習した経絡治療理論を基に、経絡治療の実際を学ぶ。気血の状態を把握し、鍼灸を用いて補瀉を行い、一連の流れで全身治療を主体的に行う。		
教 科 書	必要に応じて資料を配布する。		

具体的な到達目標	
目標 1	刺鍼に関わる一連の動作で押手と刺手がスムーズに動くことができる。
目標 2	気血へアプローチするために丁寧な診察ができる。
目標 3	診察から気血の状態を把握することができる。
目標 4	ツボを正しく取穴し、丁寧な刺鍼、施灸ができる。
目標 5	補瀉を理解し、一連の流れで全身治療ができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	55%（試験の合格を以って 55%を加算する）			
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	45%	算出方法	1 回目：-12 点	算出方法
			2 回目：-13 点	
			3 回目：-15 点	
			4 回目：出席不足	
その他	算出方法		算出方法	
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	はり師・きゅう師免許を有する。往診にて 3 年間、教員養成科附属治療所にて 2 年間、本校付属治療所にて 5 年間、鍼灸院にて 7 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で行っていた経絡治療の経験から、実際の治療内容を理論に基づき解説しながら実践する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/10	刺鍼基礎 [押手のつくり方と刺手の使い方]	
2	4/17	刺鍼基礎 [刺鍼時の姿勢、補瀉法]	
3	4/24	刺鍼基礎 [刺鍼に関する一連の流れ]	
4	5/1	診察と取穴 [脈診の復習と要穴の取穴、刺鍼と施灸]	
5	5/8	診察と取穴 [腹診から腹部の取穴、刺鍼と施灸]	
6	5/15	診察と取穴 [背候診から背部の取穴、刺鍼と施灸]	
7	5/22	治療基礎 [置鍼術と単刺術を用いた本治法と標治法]	
8	5/29	治療基礎 [てい鍼など刺さない鍼を用いた施術]	
9	6/5	治療基礎 [四診から鍼の補瀉、灸の補瀉を考慮した施術]	
10	6/12	治療基礎 [一連の流れで施術]	
11	7/3	治療基礎 [一連の流れで施術]	
12	7/10	治療基礎 [一連の流れで施術]	
13	7/17	治療基礎 [一連の流れで施術]	
14	7/24	試験	
15	7/31	治療基礎 [一連の流れで施術]	

その他の事項			
・身だしなみについては、実技実習に関する身だしなみルールに準ずる。			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0 時間	実施時間数	3 0 時間
担当教員	臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 臨床よく遭遇する運動器疾患を主とし、授業で学んだ知識を統合し患者の病態把握ができ、病態に適するはり・きゅうでの治療方法を選択し、実践できるようになる。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	医療人として相応しい整容ができる。(身だしなみルールに準じている)
目標 2	安全性を十分に考慮した施術ができる。
目標 3	頸肩腕部、腰部、股関節、膝関節の症状に対する検査法を選択し実施することができる。
目標 4	検査法による病態の鑑別ができ、治療方針をたてることができる。
目標 5	治療方針に従い、はり・きゅう施術ができる。
目標 6	指定された角度、深度で刺鍼することができる。指定された灸法、大きさと時間内に施灸することができる。
目標 7	病態に適したはり・きゅう施術を行うことができる。
目標 8	安全かつ不快な刺激とならないような施術ができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	60%			算出方法
平常点	—	算出方法		算出方法
出席点	40%	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	卒業認定実技審査	(はりきゅう)11/6 ※現時点では予定です。		

※再試験、最終再試験にて合格の場合、評価点は 60 となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	〔臼井〕あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。 脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年間の実務経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 9 年、本校附属治療所で 1 1 年間の実務経験あり。 〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間		

	の実務経験あり。本校附属治療所で7年間の実務経験あり。 〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で16年間の実務経験あり。 〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。本校附属治療所で7年間の実務経験あり。 〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で7年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で5年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で15年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	本授業は、専任教員の東洋医学・西洋医学それぞれの現場での多様な実務経験から、あはき師の臨床上必要なコミュニケーションを含めた技術を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス	
2		頸肩腕症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
3		頸肩腕症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
4		肩関節症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
5		肩関節症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
6		肘関節・前腕の症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
7		肘関節・前腕の症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
8		腰部症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
9		腰部症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
10		殿部・股関節症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
11		殿部・股関節症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
12		膝関節・下肢症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
13		膝関節・下肢症状に対する検査法および鍼灸治療の実践	
14		総復習	
15		総復習	
その他の事項			

<出席点>40点 欠課2回目まで各10点の減点。3回目は20点の減点。
